

六 写真道展審査会員・会友申請報告(本郷会務委員)

審査会員(四名)福田光男(旭川)、滝野邦保(小樽)、高橋和幸(釧路)、宮川恵子(札幌)

会友(七名) 川原民也(三笠)、田本 實(旭川)、森木欣(旭川)、松村美代子(岩見沢)、山根寿昭(釧路)、佐渡谷正裕(北見)、西澤實(恵庭)

七 写真道展審査会員・会友の退会承認(本郷会務委員)

審査会員(二名) 依谷次男(函館)、佐々木一美(札幌)、会友(五名) 間野目和嗣(札幌)、長尾学(奈井江)、宮城島昇(釧路)、佐藤公俊(北見)、込山登美雄(旭川)

八 功労者表彰の承認(本郷会務委員) 依谷次男(函館)、高橋 正(芦別)

九 その他

・写真道展作品集の販売割当(森田会務委員) 繰越金の使途については推移をみていききたい。バックナンバーの単価は未定。

・役員改選

会務委員に福田光男(旭川)、会計監査に山下智(札幌)が新たに入り全役員が承認された。

・第五十六回写真道展巡回展日程

名寄六月二日〜網走二十二年一月三十一日まで十六会場で開催。

・事務局より 出品点数の制限、二席、三席の名称変更、入選盾の廃止などの検討をしていきたい。

最後に、西澤議長退任挨拶で総会を無事終りました。

(会務委員 大平記)

功労賞を受賞して

芦別前支部長 高橋 正

この度、栄えある功労賞をいただき、身に残る光栄と感謝しております。

顧みますと、定年後転勤から解放され、実家のある芦別に帰りました。当時は熱エネルギーの転換期で、石炭産業衰退に伴う閉山で、カメラ仲間も急激に減少していました。このままでは会の存続が困難になると相談を受け、仲間と様々な対策を考え、必死に活動を展開してきました。

カメラ店に行った時に写真の愛好者がいると聞くと直接会いに行つて入会を勧めたり、カメラ教室ではプリント作品やスライドの説明をして技術の向上を図りました。アンケート調査をして会員の関心度を分析し、対応を考えたこともあります。また地元の被写体の撮影による実技指導、撮った作品の講評やアドバイスを積極的にして、写真展を開催しました。その時は手製のポスターを作製して宣伝し、地元の新聞への掲載を依頼しました。また講師に写真道展の審査会員を要請し、関係機関への協力も仰いで盛大に開催することができました。

こういった働きかけで徐々に会員も増え、現在では毎月の例会も親睦を深めながら楽しく行われています。ここ数年の道展には数名の入賞入選者があり、このことが励みとなって一層の会の発展につながり現在にいたっています。

私の一枚=随 想

(シリーズ-53)

審査会員

山本 康雄



俺の写真は面白くない、当たり前前で面白くないと、常々感じておりました。或る時、大雪山の初冠雪のニュースを聞き、即十勝岳へ。そこには予想をはるかに超えた大自然のアートがパノラマのように繰り広げられていました。山頂付近は上昇気流と下降気流の為、ポイントになかなか入れず、小さな機体は木の葉のように揺れながら何度もトライして、やつと撮れた一枚です。多くの諸先輩が歩んだ後を、私の写真としていかに表現すべきか、そう考えていた時期でもありました。抽象的で新鮮な表現をと思いついていましたので、目前の現象に感動し、ヨッシャー、ヨッシャーと叫びながら、夢中でシャッターを切り続けた感覚を、今でも覚えています。日本写真協会展に入選し、その後の活動に大きなインパクトを与えてくれた一枚です。

大雪山との名前をついた大自然が、山岳という眼では見ずに、モチーフとして捉え、自然の演出に感動しながら想いを

感じたまま表現できるよう活動してきました。主観と創造を視点に、常に新しい発見のための試行錯誤の連続でもあります。狙って撮れるカットは極僅か、しかし、思いがけない現象に出逢え、熱くなっている時の充実感は何物にも代えがたく、写真の楽しさを改めて教えられます。

イメージが先行し、納得できる写真はなかなか撮れませんが、今後は言葉の出る写真をいかに撮るか、私の感情が伝わる映像表現を目指し、映像で語れる作品作りを目標に活動して行きたいと考えています。

昨年、個展を無事終え、安心の後の慢心が恐ろしく、初心にもどり走り回っている時間が何故か新鮮で、新たなワクワク感を楽しんでいます。写真とは写して見て、初めて多くの事に気付かされます。活動することにより、写真は写真が教えてくれるものだと思える今日この頃です。